

## 3年生に贈る会

2月16日(木)、久しぶりに対面形式で「3年生に贈る会」を実施することができました。それでも、体育館に全校生徒が入ることができないのは今までと変わらないことでしたので、これまでの経験を生かし、生徒会役員を中心に考えて工夫しての実施でした。最初は3年生と1年生が体育館にいて、2年生はリモートでの参加でした。1年生の発表が終わると、会の進行を止めることなく

自然に1年生と2年生が入れ替わりました。2年生の発表を終え、3年生の発表も終わると、気づかないうちに1年生が中庭に整列していて、体育館と中庭を使っての全校での応援で、会はフィナーレへと向かっていきました。

やはりこういった行事は、本校に必要なだと感じました。3年生に贈る会の前日、1,2年生が自分たちで作成した招待状を職員室にいる先生方に届けに来てくれましたが、どの生徒も笑顔でかわいらしく、人を想う優しい顔をしていました。3年生に贈る会の取組期間、当日、本校の生徒はより輝いていたように思います。合唱、応援、招待状、贈り物、装飾、劇、体育館に降ったさくらの花びら等、様々な方法で、1,2年生と3年生が互いに感謝の気持ちを伝え合いました。それぞれ表現方法は違いますが、具体的で明確な方法で伝え合いました。勉強や部活動に頑張りたいくても、友達に想いを伝えたいくても、どう表現したらいいのか迷うことがある中学生が、精一杯想いを表現することができました。また、3年生に贈る会を通して表現の方法を学んだことが、共通の想いをもちながら、表現の違いで相手の気持ちが理解できず、誤解をしてしまうことのある中学生にとって、互いを想う力を養うことにもつながっているように感じました。

そして、忘れてはいけないのは、このような会を実施することができたのは、中学生活の3年間をコロナ禍で過ごしながらか、中学生活をあきらめなかった3年生がいてくれたからだとことです。特に今年度はその集大成として、「結翔」をスローガンに掲げ、結びつき

を大切にして生徒会活動にも取り組んでくれました。会当日、私自身出張があり、フィナーレを観ることができなかったのですが、そこにいなくても相手を想うことは、この3年間、生徒から改めて教えてもらったことでした。

最近の生徒の様子を見ると、この会がいかに意味のあるものであったかがわかります。3年生の卒業まで、本当にあとわずかです。“アフターコロナ”に向かって、生徒は確実に歩み始めています。



# あたり前の日々

卒業が間近になると、3年生の担任をしていて、あたり前の日々がこのまま続いてくれたらいいと思います。そして、行事もそうですが、あたり前の日々こそ意味があったことに気づかされます。1年ごとにクラス替えのある中学校では、1、2年生も同じことかもしれません。

毎日のあたり前は決してあたり前ではなく、その時間の中で、色々なことが起こります。その一つひとつに意味があり、その出来事が多くのことを

教えてくれます。今月の大雪の日、生徒を午前中で帰すと、その日の午後、地域の方から学校に連絡がありました。生徒たちが、地域の雪かきの手伝いをしてくれたというのです。また、その時に降った本校自転車置き場の雪がなかなか解けず、月曜日の朝のことが気になり休日に学校に来てみると、全ての雪が無くなっていました。練習に来たサッカー部の生徒たちが雪かきをしてくれたのです。雪は大変なのですが、生徒たちの優しさを知ることができて、それ以上にあたたかい気持ちになりました。

3年生に贈る会を終えた先日のこと、3年生の担任である赤石先生にクラスの様子を尋ねると、別れ難い切ない気持ちを伝えてくれました。同じく川窪先生に尋ねると、「これが愛しいという気持ちなんですね。」と言っていました。3年生の生徒たちも先生方も、卒業に向けての心づくりができたようです。学校とは、そういうことに気がついて、人生を豊かにしていく力をつける場所だと思います。



# 進路学習会

私立高校入試や公立前期入試が終わり、進路決定に向かって3年生の歩みが進んでいます。今までに無い経験をしている生徒たちが、この期間の様々な出来事を自分の成長の糧としてくれたらと想います。そして、全員の進路が決まり、全ての3年生が希望に燃えた15の春を迎えることを願っています。

前述したように、「進路」と言えば3年生に向けられた言葉でした。しかし、来年度の入試まで1年を切った(切ろうとしている)今、「進路」は2年生にとっても、大切なキーワードとなっています。2月21日(火)5校時、体育館で、2年生が進路学習会を行いました。



学年主任の青嶋先生から高校の学科や入試制度、小林亮斗先生から日程、平賀先生から進路において大切なこと等について説明がされました。

「受検はチーム戦」3年生がよく使う言葉ですが、3年生に贈る会に取り組む様子を見ていると、2年生の中に3年生になる自覚、学年、学校というチームをつくらうとする志が強くなっていることがわかります。令和4年度の終わりまであとわずか、新年度が確実に近づいています。